



新潟営業統括センターにおける柔軟な働き方の実現について提案を受ける！

12月13日地本は新潟支社より新潟地区所管エリアのJR社員が勤務する駅を統合して、新潟営業統括センターとする提案を受けました。庄内統括センター、長岡営業統括センターに続く発足となりますが、そこで働くJR労働者にとって柔軟な働き方となるように不安の解消と労働条件・労働環境の改善に取り組みます。



■ 提案内容 ■

- 設置日 2023年3月1日（2022年度末ダイヤ改正日に体制見直しを行う）
- 設置場所 新潟営業統括センター
- 体制 現行 小国駅【管理1一般1】 新発田駅【管理2一般2】
村上駅【管理5一般5】 新津駅【管理5一般8】
新潟駅（上沼垂）【管理1一般2】 新潟駅【管理15一般31】
改正 新潟営業統括センター（3月1日設置）【管理23一般49】
（ダイヤ改正日）【管理17一般38】
- 付記
 - ・鉄道オペレーションの変更（作業ダイヤ数増減）に伴う体制見直しは、ダイヤ改正日に実施する。
 - ・冬期の波動についても、前項の体制をもとに1日当りの出面数（作業ダイヤ数）を柔軟に設定する。
 - ・関係乗務員区所との業務連携を推進するほか、新潟運輸区の乗務行路に新潟駅の業務を融合する。
- 交渉要旨
 - ・新潟は輸送（信号扱い・入換）があり長岡と違い営業と輸送の融合を進める。
 - ・新潟はブロック分けしない。小国駅以外は新潟近辺から通勤可能圏内である。
 - ・新津駅輸送は他駅との融合より新津駅内での営業との融合を優先する。
 - ・長岡運輸区は全員兼務発令したが、新潟・新津運輸区はそれに限らない。
 - ・新潟運輸区車掌が新潟駅の委託箇所以外で改札業務を担う。
 - ・新潟新幹線運輸区は連携したいとアクションを起こしている。
 - ・長岡駅業務を経験している長岡運輸区社員からは、新しい仕事にチャレンジすることができ、若手ベテラン問わずやりがいを感じていると聞いている。
 - ・業務担当の管理・一般の徹夜勤務を増設し深夜早朝対応可能となる。一般（営業含）または管理が2徹となることもある。業務担当はなくなる。